

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第8回 産業・経済部会
日時	平成23年4月26日（火）午前9時30分から午前11時30分
会場	長野市役所第二庁舎10階 会議室18
出席者	作業部会員 （敬称略）
	関係課員

I 会議次第

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 市民フォーラム21 第7回 産業・経済部会 会議概要について 【別添資料】
- 5 第四次長野市総合計画 後期基本計画 施策の目標及び主な取組について
【産業・経済分野】 【資料1】【資料2】
- 6 第四次長野市総合計画 後期基本計画に係る指標について
【産業・経済分野】 【資料3】
- 7 報告事項 【資料4】
 - (1) 第四次長野市総合計画 後期基本計画 目標等について
 - (2) 市民意見の聴取結果等について
 - (3) 国勢調査結果の速報について
- 8 その他
- 9 閉会

II 会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 5 第四次長野市総合計画 後期基本計画 施策の目標及び主な取組について
【産業・経済分野】

①施策の目標や主な取組などについて検討したのは3月11日以前。この度の大きな震災により、長野市にも様々な影響が出ていると思う。長野市の総合計画を策定するただ中で起きた震災であるが、産業・経済分野では何も触れなくてよいか。観光の分野では観光客が大幅に減少しており、この状況がいつまで続くのか予測がつかない中で、これまでと同じことを掲げて進めていて大丈夫なのか、何とかしなければならないという思いがある。この会議の中で話し合う内容ではないかもしれないが、どこかでそのような議論がなされるべきであると感じている。

⇒「安全で安心して暮らせるまち」の視点の中で、計画全体として入れるというやり方もあると思うが、観光面での受け入れ体制など、産業・経済にも深く係わりのある問題でもあるので、この分野の中で字句として入れても良いのでは。

⇒工場などでも直接的に操業に影響がでているという実態もある。

⇒この度の大地震の関係は、他の部会でも議論を進めている。直接関係する防災・安全分野に

においては、現況と課題の中で、大規模震災への対応や2次災害、今回の震災の場合は放射能の問題があると思うが、この対応に向けた体制づくりについて追記しようということになった。観光面では、短期的な課題としては、観光客の自粛ムードを解消して観光客にお越しいただくということもあるが、総合計画には、5年間の長期的なビジョンとして、ある程度普遍的な取組を記載する必要がある。各論の中でどのような対策を講じるかについて議論することは必要だが、長期的・普遍的な内容を記載する総合計画の中では、あえて触れなくても良いと考えている。

⇒この度の震災を踏まえて議論したうえで、5年後を見据えて内容を決定したということが大切だと思う。産業・経済分野に記載しないことについて、今の説明で理解できた。

⇒産業・経済分野には記載しないことで決定

②施策 521-01 主な取組①の「農業者の法人化」については、従来の個人経営や家族経営を会社経営にするとということだと思うので、「農業経営の法人化」という表現が適切ではないか。

⇒個人の農業者が集まって法人化してもらいたいという意味合いを込めてこのような表現にしている。「農業経営の法人化」だと漠然としてしまう。

⇒ここで言う法人化には、個人営農者を法人にするというものと、新たな業界から法人化して農業に参入してもらおうというものと、2つの意味があるのではないか。農業者とした場合、個人に限定されてしまう。農業経営の法人化でも良いと思うが、後に農業経営の安定化という字句が出てくるため表現が重複する。「農業の法人化」は一般的にも使う言葉なので、元のままで良いのではないか。

⇒既存の企業が農業に参入するということもあるが、既に法人化しているところがほとんど。個人経営の零細な農業を集約し、法人化して生き残ってもらいたいという意図があるため「農業者の法人化」としたもの。

⇒農業を続けられるかどうかの瀬戸際で頑張っている人たちが大勢いる中で、こういう人たちに手を差し伸べ、何とか支えていきたいという表現の部分だと思う。農業をされている人の中には、自分の技術やノウハウにプライドを持っている人が多いが、体力の衰えや環境の変化の中で、それを出し合ってやっていくには、相当な壁があると感じている。一人でもリーダーとして引っ張っていく人がいると地域はまとまりやすい。これまでの農業は、各自が独立独歩、自主独立で進めてきたという印象がある。何百万円もかかる機械を自分だけのために購入している。

⇒経営として成り立つ農業と、成り立たない農業とがある。その辺りをどのようにまとめていくか。何歳であっても自立して農業をやっている人という人と、家庭菜園程度で細々とやっている人と極端に分かれてきている。地域の農業が全部壊れてしまうということが大きな問題。個々の農家は家庭菜園程度であっても、地域でまとまって何とか農業をやっているという取組も支援してほしいと思う。法人化は農業を維持していくための一つの手法だと思うが、個人の法人化と言ってもなかなか難しいという現実がある。女性の立場から見ると、法人化と言われても、とてもそんな規模ではないので、難しいと考えてしまう農家が多半ではないかと感じている。

⇒確かに、農業従事者にも様々な形があるので、端的に表現するのが難しいという面はある。

⇒ここで農業者という言葉を使うことに違和感があるということなので、「農業経営の法人化」とするか、または、「農家の法人化」とすることも考えられる。この計画では個人経営の法人化に着目しているということではあるが、個人も含めて「農業の法人化」と元の表現に戻すということも考えられる。

⇒先ほどの提案にもあったとおり、「農業者の法人化」を元の「農業の法人化」に戻すということではいかかがか。

⇒この通り決定

③施策 541-01 主な取組②で、「歩いて楽しむことのできる商空間づくり」という表現が「回遊性の向上」に修正されたが、「回遊性」という言葉がわかりづらい。賑わいの創出について、例えば、人と店舗が賑わうというような表現があれば、「回遊性の向上」という表現を使わなくても良いと思うが。

⇒店舗というお話しがあったが、市では商店街という広い範囲で賑わいを創出したいと考えている。商店街における回遊性、人の流れを向上したいということで原案の表現としたもの。

⇒文章を読んである程度イメージが広がっていくような表現が良い。

⇒一つの商店街が単独で催しを行うようなイメージではなく、いくつかの商店街を結びつけて人を動かすというイメージか。

⇒両方の意味がある。一つの商店街の中での賑わいとして、店舗と店舗の間で人が行き来するという事柄があれば、中心市街地などで大規模イベントを開催する場合には、商店街の間で人の流れが生まれるということもある。

⇒「回遊性」という表現が分かりづらいということなので、「回遊性」を使わずに、人が流れるというような表現にはできないか。

⇒今回「回遊性」という言葉を提案したが、先ほども説明があった広範囲での人の流れをイメージし、日頃使っている表現として提案したもの。

⇒「回遊性」という言葉については、馴染みのある表現だと思うが、注釈を付けて、個々の店舗の間の回遊性と、商店街の間の大きな回遊性の2つの意味合いを説明しても良い。

⇒現実として、市街地を回遊して、ぶらぶら歩くような状況はあるのか。

⇒そういう状況がほしい。大規模イベントの時はいいが、365日イベントをしているわけではない。施策名称が「中心市街地の魅力づくり」なので、それぐらいのエリアが読み込める「回遊性」という表現は適当だと思う。

⇒松代地区の場合、回遊性ばかりが向上して、商店街の賑わいが出てこないという状況がある。観光などの目的だけ果たして帰ってしまうということだと思うが、観光客を引き止めるだけの何かしてほしい。

⇒郊外型の店舗には車で乗り付けることができるが、商店街で買い物をして、荷物を持って歩き回らなければならない。今の人たちはそういうところに抵抗があるのではないかと。よほどのサービスで付加価値を付けないと消費者のニーズは満たせない。

⇒先ほど、「回遊性」という言葉は一般的にも使われているという意見があった。分かりやすく言えば「ぶらぶら歩けるような」ということだと思うが、総合計画の中では「回遊性」という言葉で表現するという事でいかかか。

⇒この通り決定